

感謝する理由 コリント人への手紙第一 1:4-9

先週からコリントの教会へ宛てられた最初の手紙について見始めました。パウロの挨拶の中に、教会であること、またキリストの体であることがどのような事かを見ました。今日は第一章の4節から9節までを見ていきたいと思います。皆さんは感謝することが難しいと感じたことはないでしょうか。感謝するよりも文句を言う方が簡単だと思える状況にあったことはありませんか。この教会においてパウロはそのような状況に簡単に陥ることができたでしょう。この書では、このどうしようもない教会において、その罪を正すことにフォーカスしているとお話ししました。ですが、パウロはすぐにそうするのではなく、意図的にこのどうしようもないひとびとに感謝を述べています。まずはコリント第一 1:4-9 を読み、そのことを見てみましょう。「4. 私は、キリスト・イエスにあってあなたがたに与えられた神の恵みのゆえに、あなたがたのことをいつも私の神に感謝しています。5. あなたがたはすべての点で、あらゆることばとあらゆる知識において、キリストにあって豊かな者とされました。6. キリストについての証しが、あなたがたの中で確かなものとなったからです。7. その結果、あなたがたはどんな賜物にも欠けることがなく、熱心に私たちの主イエス・キリストの現れを待ち望むようになっています。8. 主はあなたがたを最後まで堅く保って、私たちの主イエス・キリストの日に責められるところがない者としてくださいます。9. 神は真実です。その神に召されて、あなたがたは神の御子、私たちの主イエス・キリストとの交わりに入れられたのです。」

最初にお話ししました通り、パウロがこの書簡で語っていることの多くはネガティブなことばかりでしたが、まずはこの教会のクリスチャンたちに感謝する理由を見つけることから始めています。パウロは彼らの行いを批判しますが、キリストに従うことにどれほど不完全であったにせよ、彼らを救ってくださった神の驚くばかりの恵みの中にただ感謝しかありませんでした。コリントの人々が神の恵みによって生きることを学ぶ助けとなることにパウロは書簡のほとんどを割いています。テトスへの手紙 2:11-13 で、若い牧師であったテトスに説明した神の恵みのメッセージを、彼らにも教えたかったのです。「11. 実に、すべての人に救いをもたらす神の恵みが現れたのです。12. その恵みは、私たちが不敬虔とこの世の欲を捨て、今の世にあって、慎み深く、正しく、敬虔に生活し、13. 祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるイエス・キリストの、栄光ある現れを待ち望むように教えています。」神の恵みは救いをもたらすだけでなく、義なる命を生き、主の栄光を反映した決断をする力をもたらします。

私たちの救いは、完全に神の恵みに基づくものです。それこそが、私たちが受けるに値しない神の優しさと恵みの主な目的であることは明らかです。この点についてエペソ人への手紙 2:8 は明確に示しています。「この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。」ですが、神の恵みの目的は救いだけではありません。事実ヨハネの福音書 1:16 は「私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けた。」と言っています。神は恵みを注いでくださいます。恵みの上にさらに恵みを注いでくださいます。神の豊かさとは、つまり神の力と持てるもの全てです。もちろん神が持っているもの、その力は無限です。詩篇 50:9-12 にはこのようにあります。「9. わたしはあなたの家から雄牛を囲いから雄やぎを取ろうとしているのではない。10. 森のすべての獣はわたしのもの。千の丘の家畜らも。11. わたしは山の鳥も残らず知っている。野に群がるものたちもわたしのもの。12. たとえ飢えてもわたしはあなたに言わない。世界とそれに満ちるものはわたしのものだ。」ここでもパウロはこれと同じことを私たちに示してくれていることに注目してください。神の恵みは「イエス・キリストにあって（あなたがたに）与えられた」とある4節の言葉に続けて、5節では神が恵みをお与えになるということは「すべての点で、…キリストにあって豊かな者とされ」ることだとパウロは言っています。神の恵みは私たちが必要とするもの全てを与え、さらにそれ以上のものを与えてくれます。そもそも私たちが受けるべきは罪に対する永遠の罰以外にないのですから、私たちが受けるに値しないものを与えて豊かにして下さるのです。

パウロは続けて神の恵みが私たちが豊かにする2つの具体的な方法について述べています。それらはこの書簡の中のいくつもの箇所でも今後重要となってきます。パウロは5節で「あらゆることばとあらゆる知識において…豊かな者とされました」と言っています。この「ことば」と「知識」という二つの言葉は、コリント人への手紙第一の中で何度も出てきます。パウロは「ことば」については16回、「知識」については10回言及しています。ですから、神の恵みがクリスチャンの生活、そしてこの教会の生活においてそれらがどのように働くかが重要であると彼が考えていたことが分かります。6節に進むと彼ら信徒の生活の中に働く神の恵みが、パウロのキリストについての証しが真実であったことの証明であることが分かります。パウロは「キリストについての証しが、あなたがたの中で確かなものとなった」と言っています。福音の力を証明するものは、福音によって豊かになった、あるいは変えられた人生の中にあります。ローマ人への手紙1:16にある真理が示すのは、そのような変えられた人生です。「私は福音を恥としません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシア人にも、信じるすべての人に救いをもたらす神の力です。」

それはどのようにことばや知識を通して示されたのでしょうか。主な方法の一つは霊的な賜物を通してです。7節には「その結果、あなたがたはどんな賜物にも欠けることがなく、熱心に私たちの主イエス・キリストの現れを待ち望むようになっていきます。」とあります。コリント人への手紙第一12章では、パウロは「ことば」を霊的な賜物として具体的に語っています。コリント人への手紙第一12:8「ある人には御霊を通して知恵のことばが、ある人には同じ御霊によって知識のことばが与えられています。」ここで「ことば」と訳されているギリシャ語のロゴスという言葉は5節で使われている語と同じものです。霊的な賜物についてはこの書簡の後半で詳しくお話ししますが、霊的な賜物が存在するという事は、私たちの人生に神の恵みが働いているということを示しており、福音の力と真理を確証しています。「私には神様から与えられている賜物などない」と言われる方がおられるかも知れません。ですが、それは真実に反しています。エペソ人への手紙4:7-8は、神の恵みを体験した全ての人が賜物を与えられていると言っています。「7. しかし、私たちは一人ひとり、キリストの賜物の量りにしたがって恵みを与えられました。8. そのため、こう言われています。「彼はいと高き所に上ったとき、捕虜を連れて行き、人々に贈り物を与えられた。」賜物にある恵みの照明について最後にもう一つお伝えしたいと思います。7節は「あなたがたはどんな賜物にも欠けることがなく」と言っています。「あなたがたは」とあります。一人が霊的な賜物全てをもっているのではないのです。けれど、教会として、私たちは全ての霊的な賜物をもっているのです。聖書の、そして使徒パウロを通して与えられた神の一貫したメッセージは、私たちが救う神の恵みは、私たちが他の人々と共に在ることを意図しているということです。自分が全ての賜物を持っている訳ではありませんが、他の信者と共にあって、神から与えられた賜物を用いてキリストの体に仕え、建て上げるのです。ここでもまた、この書簡のはじまりにおいて現代の教会員制度を強く支持していることが分かります。つまり地域教会につながり、そこで自分たちの賜物を用いることが求められているのです。

ことばと知識は霊的な賜物と関係していますが、真理の源である神のみことばとも関係しています。コリント人への手紙第一の最後、15章では、パウロが福音について語ることで復活という最後の問題について語っています。コリント人への手紙第一15:1-2はこう言っています。「1.兄弟たち。私があなたがたに宣べ伝えた福音を、改めて知らせます。あなたがたはその福音を受け入れ、その福音によって立っているのです。2.私がどのようなことばで福音を伝えたか、あなたがたがしっかり覚えているなら、この福音によって救われます。そうでなければ、あなたがたが信じたことは無駄になってしまいます。」普通、恵みは神のみことばを通して与えられます。神が私たちの人生に恵みを示すのは、神のみことばを人生に適用するための教えを通してです。私たちは神との関係において成長し、交わりの中で神が成長させ豊かにして下さる霊的な賜物を理解し、用いることができるようになります。ここ15:2でも「ことば」と訳されている語はロゴスで、1:5で使われているのと同じ語です。

神の恵みは私たちが豊かにしますが、それは私たちの人生における神の恵みの最初の働きが終わってからのことです。このことについてパウロは7-8節で次のように言っています。「7. その結果、あなたがたはどんな賜物にも欠けることがなく、熱心に私たちの主イエス・キリストの現れを待ち望むようになっていきます。8. 主はあなたがたを最後まで堅く保って、私たちの主イエス・キリストの日に責められるところがない者としてくださいます。」私たちはそれぞれ、主に救いにおいて神の恵みを経験します。人を罪から救い、聖くするための基礎となる贖いと聖化の業こそ、私たちが最も感謝すべきものだとしてパウロは認めているのです。神の恵みの下に生きる私たちクリスチャンは、待っている最中なのです。既に得ているけれど、まだ得ていないという状態にあります。既に救われているけれど、コリント人への手紙第一の中で明らかになるように、罪のない完全な状態にある訳ではありません。正直なところ、「救われている」と感じられない時もあります。神から賜物を与えられているということについては、自分はその賜物を使う資格がないと感じてしまいます。もしかしたら自分には賜物なんてないと思っているかも知れません。そうした思いは全て、神の恵みを経験した「既に」救われていることの表われです。ですが、現実にその恵みの中に完全に生きているかということについては「まだ」そこにまで至っていません。このことについてパウロはピリピ人への手紙3:12で明確に述べています。「私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして追求しているのです。そして、それを得るようと、キリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。」つまり、私たちは完全にキリストと共に在ることを待ち望んでいる状態にあり、既に完全な訳ではないのです。ですが、キリストが私たちのために成してくださったことゆえに、日によって「救われている」とか「罪深い」とか感じたとしても、神の目には本当に罪がない者としてあることが保証されているのです。それは、私たちが罪を犯さないからではなく、罪を悔い改め、イエス・キリストを主として、救い主として信じたから、罪が赦され神の目に罪のない、正しい者とされるからです。つまり罪がない者とされるのです。ローマ人への手紙3:21-22にはこうあります。「21.しかし今や、律法とは関わりなく、律法と預言者たちの書によって証しされて、神の義が示されました。22.すなわち、イエス・キリストを信じることによって、信じるすべての人に与えられる神の義です。そこに差別はありません。」

ですから、たとえ救われたと感じなくても、神の前には赦されており、罪が無いのだと信じるのできるのです。今日の聖書箇所が終わる方で、それを確信することが出来ます。「9. 神は真実です。その神に召されて、あなたがたは神の御子、私たちの主イエス・キリストとの交わりに入れられたのです。」神の救いの力は永遠です。神が赦すことのできない罪を私たちが犯すことはできません。神が見つけれられないほど遠くに、私たちが神から離れることはできません。詩篇94:14はそのことについて「まことに主はご自分の民を見放さずご自分のゆずりの民をお見捨てになりません。」と言っています。真の神は、私たちが交わりのために救ってくださいました。私たちはイエス・キリストとの交わりに召されたのです。召しについて少しお話したいと思えます。教会でこの言葉は時に間違った使われ方をします。多くの場合は、神が私たちが特定の働きに召される、という意味合いで用いているのではないのでしょうか。つまり「神様があなたを牧師や執事、日曜学校の先生に召されましたか」といった具合です。神が教会において特定の役割に人を選ばれるということは確かにあります。ですが、召しに関して言えば、すべてのクリスチャンが救いに与り救いの恩恵を受けることを指している方が圧倒的に多いのです。ここでは、私たち皆が交わりのために召されているとあります。ローマ人への手紙8:28は神を愛する人たち、つまりクリスチャンを「神のご計画にしたがって召された」と言っています。新約聖書で神が語られたことによれば、私たちが問うべきは何のために召されているか、ではなく、賜物を頂いてキリストに似た者とされているかです。キリストに在る私たち皆が召されているのです。

交わるようにと召されているのです。その交わりがどこにあるのかに注目してください。教会で交わりと言うと、共に食事をしたり、笑いながら話したりくつろいだりすることを思い浮かべるとおもいます。ですが、コリントの教会への書簡にあるように、それだけでは信徒同士的一致や真の交わりを持つことはできません。教会における真の交わりは、他の人と共にあることではな

く、イエス・キリストと共にあることから始まります。私たちがキリストに近づけば近づくほど、キリストと共にあればあるほど、キリストの体における真の交わりが生まれます。他の信徒との繋がりは、キリストとの繋がりに根差すのです。コリント人への手紙第一の2章にあるように、パウロは自分の人生の始めにも終わりにも、唯一優先されるのはキリストであると明確に述べています。コリント人への手紙第一 2:2 「なぜなら私は、あなたがたの間で、イエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリストのほかには、何も知るまいと決心していたからです。」ですから、先週見た箇所から始まって、最初の9節の中で9回もキリストについて触れられていることに納得できます。2節で、この世の創造の前からキリストに贖われる者として定められた召しに始まり、今日の箇所ではキリストを知ることによって与えられる現在の恵みを示し、そして将来の裁きと、キリストゆえに罪のない者とされていることで締めくくられていますが、パウロにとって全てはイエス・キリストを知ることによりもたらされることなのです。

あなたはキリストとこのような交わりの中におられますか。聖書に書かれた名前でもなく、単なる宗教指導者としてでもなく、両親が信じる宗教としてでもなく、あなた自身の主として、救い主としてキリストを知っていらっしゃいますか。今日あなたが自分の罪を悔い改め、キリストがあなたの代わりに十字架で死んであなたの罪の罰を受けて下さったことを信じるなら、父なる神はあなたがこれまでに犯した罪の全てを赦してください。神の子であるイエス・キリストゆえに罪のない者とされるのです。神は真の神でおられ、約束を必ず守ってくださる方であることを忘れないでください。そして使徒の働き 16:31 で「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも救われます。」と約束してくださっています。

今日の箇所では、神の恵みの表われとして霊的な賜物に触れられていました。神の恵みが賜物として、神を賛美する言葉や知識として現れるということを思う時、そもそもなぜこのような賜物が与えられているのかを思い起こす必要があります。エペソ人への手紙 5:19-21 には次のようにあります。「19.詩と賛美と霊の歌をもって互いに語り合い、主に向かって心から賛美し、歌いなさい。20.いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって、父である神に感謝しなさい。21.キリストを恐れて、互いに従い合いなさい。」キリストの体に在って、私たちは自分の言葉や神の賜物についての知識、神のみ言葉を、どのように他の人の励ましのために用いているでしょうか。不平を言うのではなく、感謝を捧げられるように励ましているでしょうか。一人一人の状況に御言葉を語るような、神の真実が豊かに語られた歌を歌っているでしょうか。教会において、そのような目的のために自分に与えられた賜物や言葉を使っているでしょうか。

教会には様々な生い立ちを持ち、様々な問題を抱えた、様々な性格を持った人たちがおられます。そしてキリストの体の一部であるその全ての方に感謝すべき理由があります。神の民のうちに働く神の恵みに基づいて感謝するとき、どんなに大きくても、どんなに小さくても、どうしようもない状態であったとしても、すべての真の教会に感謝する理由があります。自分を救って下さった神の恵みにあなたはどれほど感謝していますか。その恵みゆえに、キリストとの、またキリストの体との交わりの中で成長できることにどれほど感謝しているでしょうか。そして、あなたがいつの日か聖なる神の前に立ち、自分のものではない義を身にまとい、創造主から罪がなく赦されたと宣言されることを保証してくださる神の恵みにどれほど感謝しているでしょうか。キリストの体として共にある人々の、それぞれの人生に神の恵みを見ようとする、感謝する群れとなりますように。祈りましょう。

1 Corinthians 1:4-9 A Reason for Gratitude

Last week, we really began to dig in to this First letter to the church at Corinth. We saw within Paul's greeting the true meaning of being the church, of being the body of Christ. Today we continue in the first chapter by looking at verses 4-9. And I want to ask you, is it ever hard to be thankful? Do you find yourself in a position where it is easier to complain than to be thankful? It would have been easy for Paul to be in that position with this church. We have said the focus in this book is mostly on correction of their sin in this messy church. But instead of jumping right into that correction, he is intentionally grateful for these messy people. I want you to see that focus as we begin by reading 1 Corinthians 1:4-9. ⁴I give thanks to my God always for you because of the grace of God that was given you in Christ Jesus, ⁵that in every way you were enriched in him in all speech and all knowledge—⁶even as the testimony about Christ was confirmed among you—⁷so that you are not lacking in any gift, as you wait for the revealing of our Lord Jesus Christ, ⁸who will sustain you to the end, guiltless in the day of our Lord Jesus Christ. ⁹God is faithful, by whom you were called into the fellowship of his Son, Jesus Christ our Lord. Let's pray

As I said when we began, much of what Paul says in this letter is negative, but Paul begins by finding a reason to give thanks for the Christians in this church. While he will criticize and confront much of their conduct, there is everything to be grateful for in the amazing grace of God that saved these people no matter how imperfectly they were following Christ. Paul will spend most of this letter focused on helping the Corinthians learn to live by God's grace. He wanted to teach them the message of God's grace that he explained to the young pastor Titus in [Titus 2:11-13](#). [11 For the grace of God has appeared, bringing salvation for all people, 12 training us to renounce ungodliness and worldly passions, and to live self-controlled, upright, and godly lives in the present age, 13 waiting for our blessed hope, the appearing of the glory of our great God and Savior Jesus Christ](#)...God's grace not only brings salvation, but the ability to live a godly life and make decisions that reflect his glory.

Our salvation is completely based on God's grace. It is clear that is God's primary purpose of his undeserved kindness, his grace towards us. [Ephesians 2:8](#) is very clear on this point. [8 For by grace you have been saved through faith. And this is not your own doing; it is the gift of God](#)... But salvation is not the only focus of God's grace. In fact [John 1:16](#) tells us, [16 For from his fullness we have all received, grace upon grace](#). God pours out his grace on us...grace upon grace...out of his fullness, in other words his ability and resources. Of course those resources, God's fullness, is unlimited. [Psalm 50:9-12](#) says, [I will not accept a bull from your house or goats from your folds. 10 For every beast of the forest is mine, the cattle on a thousand hills. 11 I know all the birds of the hills, and all that moves in the field is mine. 12 "If I were hungry, I would not tell you, for the world and its fullness are mine](#). Notice how Paul gives us that same idea here. He follows his statement of verse 4 that God's grace was "given [them] in Christ Jesus," with verse 5 that God giving them grace means that "in every way [they] were enriched in him"... God's grace gives us everything we need and even more. It enriches us beyond anything we deserve, since what we deserve is nothing but eternal punishment for our sin.

Paul goes on to describe two specific ways that God's grace enriches us, and these ways will be significant going forward in several places in this book. He says in verse 5

that **you were enriched in him in all speech and all knowledge**—. These two words, “speech or word” and “knowledge” appear many times in 1 Corinthians. 16 times Paul refers to “word” and 10 times to “knowledge” so this is a primary focus in how he sees God’s grace working in the life of a Christian and the life of this church. As we continue on into verse 6, we see that it is God’s grace working in the lives of these believers that confirmed that Paul’s preaching about Christ was true. He says, **6 even as the testimony about Christ was confirmed among you**— The proof of the power of the gospel is in lives that are enriched or changed by the gospel. It is those changed lives that show the truth of [Romans 1:16](#), **16 For I am not ashamed of the gospel, for it is the power of God for salvation to everyone who believes, to the Jew first and also to the Greek.**

How did this proof manifest itself or make itself known through speech and knowledge? One of the key ways is spiritual gifts. Verse **7 says, so that you are not lacking in any gift, as you wait for the revealing of our Lord Jesus Christ**, In 1 Corinthians 12, he comes back in specific ways to “words” being seen as a spiritual gift. [1 Corinthians 12:8](#) says, **For to one is given through the Spirit the utterance of wisdom, and to another the utterance of knowledge according to the same Spirit**... The word, “utterance” is the same Greek word *LOGOS* translated as “speech” in verse 5. We will talk much more about spiritual gifts later in this book, but the fact that spiritual gifts exist shows God’s grace at work in our lives and therefore confirms the power and truth of the gospel. You may say that “I don’t have any gifts that God has given me.” But that is far from the truth. [Ephesians 4:7-8](#) makes the point that everyone who has experienced the grace of God has been given gifts. **7 But grace was given to each one of us according to the measure of Christ’s gift. 8 Therefore it says, “When he ascended on high he led a host of captives, and he gave gifts to men.”** I want to make a final point regarding this proof of grace in gifts. Notice verse 7 says, **7 so that you are not lacking in any gift**... That “you” there is plural. Not a single one of us has all the spiritual gifts, no one. But collectively, we all, the church, have all the spiritual gifts. The Bible, and therefore God’s consistent message through the Apostle Paul, is that God’s grace that saves us is intended for us to live in community with others. We don’t have every gift, but we join ourselves together with other believers and use the gifts that God has given us to serve and build up the Body of Christ as a whole. So once again here at the beginning of this book we see strong support for the modern application of membership – joining yourself in a committed covenant relationship with a local church – where you can live out this collective use of your gifts.

Speech and knowledge are related to gifts of the Spirit, but they are also related to the source of truth, the Word of God. If you go to the end of the book of 1 Corinthians in chapter 15, you see Paul dealing with the last issue of the resurrection by talking about his preaching of the gospel. [1 Corinthians 15:1-2](#) says, **Now I would remind you, brothers, of the gospel I preached to you, which you received, in which you stand, and by which you are being saved, if you hold fast to the word I preached to you—unless you believed in vain.** You see the ordinary means of grace is through the Word of God. It is the regular preaching and teaching of the Word of God being applied into our lives that God uses to demonstrate his grace in our lives. We grow in our relationship with God and in our understanding and ability to use those spiritual gifts that God is growing or enriching us in. Again here in 15:2, the word “word” is *LOGOS*, the same word we see in 1:5 with the word, “speech.”

God's grace enriches us, but only after God's grace has done its primary work in our lives, which Paul points out in verses 7-8. ...so that you are not lacking in any gift, as you wait for the revealing of our Lord Jesus Christ,⁸ who will sustain you to the end, guiltless in the day of our Lord Jesus Christ. We each experience God's grace primarily in our salvation, and Paul recognizes that that foundational work of redemption and sanctification, saving a person from sin and making a person holy is what we should be most thankful for. As Christians living under God's grace we are in a state of waiting. We live in a constant of already but not yet. We have already been saved, but as will be all too clear in what is coming in this book of 1 Corinthians, we do not live in a state of sinless perfection. Sometimes to be honest, we don't feel "saved." In relation to being given gifts by God, we feel like we are inadequate in using those gifts. Maybe we don't even think we really have gifts. All of that is a symptom of this "already" state of having experienced God's grace – we have been saved. But we have "not yet" reached the point of fully living in the reality of that grace. Paul states this even more clearly in [Philippians 3:12](#). Not that I have already obtained this or am already perfect, but I press on to make it my own, because Christ Jesus has made me his own. So, we are in this state of waiting for our perfect existence with Christ, which means we are not already perfect. But because of what Christ has done for us, we are assured that no matter how we may feel on a given day, "saved" or "sinful" we are truly ultimately guiltless in God's eyes. It is not because we ourselves have not committed sin, but because if we have repented of our sin and trusted in Jesus Christ as Lord and Savior, then our sin is forgiven and we are made righteous – without sin – in God's eyes. In other words, [guiltless](#). [Romans 3:21-22](#) says, [21But now the righteousness of God has been manifested apart from the law, although the Law and the Prophets bear witness to it— 22the righteousness of God through faith in Jesus Christ for all who believe.](#)

So, even when we don't feel saved, we can trust that we are forgiven, guiltless in God's eyes. We can trust that because of how these verses end. [9God is faithful, by whom you were called into the fellowship of his Son, Jesus Christ our Lord. God IS faithful!](#) God's ability to save is eternal. We can never commit a sin he cannot forgive. We can never move too far away from him that he cannot find us wherever we are at. [Psalm 94:14](#) assures us that ["the Lord will not forsake his people; he will not abandon his heritage..."](#) Our faithful God saved us for the purpose of fellowship. We are called [into the fellowship of his Son, Jesus Christ...](#) Let me briefly mention calling. We misuse that word so often in the church. We use it probably most times to refer to God calling us to specific ministry. In other words, "has God called you to be a pastor, deacon, Sunday school teacher, children's worker or whatever." There are definitely some references to God choosing people for specific offices in the church, however the overwhelming reference to calling is in relationship to every Christian being called to salvation and specific benefits that come with salvation. Here we are all called to fellowship. [Romans 8:28](#) describes those who love God, in other words, Christians as ["called according to his purpose."](#) The question that seems best to ask based on what God tells us in the New Testament is are you gifted and Christlike, not are you called to something. All of us who are in Christ are called!

We are called to fellowship. Notice where that fellowship lies. When we talk about fellowship in church, we generally think of sharing meals together, talking laughing and relaxing together. But that in itself as we will see in this letter to the church in Corinth does not create unity and real fellowship between believers. Real fellowship in the

church begins not with participation with other people, but with one person, Jesus Christ. The closer we grow to Christ, the more we participate with him, the more our true fellowship within the Body of Christ will grow. Our connection with other believers is rooted in our connection with Christ. As 1 Corinthians continues in chapter 2, Paul makes clear that Christ is the first, the last, the only priority of his life. [1 Corinthians 2:2 says, For I decided to know nothing among you except Jesus Christ and him crucified.](#) So, it makes complete sense that starting with the verses we looked at last week, in the first 9 verses, he mentions Christ 9 times. Starting at verse 2 with their calling from before the creation of the world to be predestined as one of Christ's redeemed people, to the passage for today showing the present benefits of knowing Christ and then closing with a focus on future judgement and being found guiltless because of Christ, everything for Paul revolves around knowing Jesus Christ.

Do you have this fellowship with Christ? Do you know him, not as a name on the pages of the Bible, not just a religious figure, or a religion your parents follow; but do you know him personally as your Lord and Savior? Today, if you repent of your sins and believe that he died in your place on the cross to take the punishment for your sin, God the Father, will forgive all the sin you have ever committed. You will be found guiltless because of Jesus Christ, God the Son. Remember, he is a faithful God, who will always keep his promises. And he promises in [Acts 16:31, Believe in the Lord Jesus, and you will be saved...](#)

This passage today introduced the idea of spiritual gifts as a demonstration of God's grace. And as we consider that God's grace manifests itself in speech and knowledge that glorifies God in the form of gifts, we need to remember why these gifts are given in the first place. [Ephesians 5:19-21 says, 19addressing one another in psalms and hymns and spiritual songs, singing and making melody to the Lord with your heart, 20giving thanks always and for everything to God the Father in the name of our Lord Jesus Christ, 21submitting to one another out of reverence for Christ.](#) How are we using our speech, and our knowledge of God's gifts and God's Word to lift up others in the Body of Christ? To encourage others to give thanks rather than complain? To sing doctrinally rich songs that even speak God's Word into each person's situation? Are we using our gifts, our words, to that end in the church?

And while each person in the church comes with different backgrounds, different problems, different personalities, there is a reason to give thanks for every member of the Body of Christ. There is a reason for thanksgiving in every true church no matter how big or small or messy if we ground our thanksgiving on the work of the grace of God in the people of God. How thankful are you for the grace of God that saved you? How thankful are you for that same grace that now allows you to grow in your fellowship with Christ and the body of Christ? And finally, how thankful are you for the grace of God that ensures that you will one day stand before a holy God, clothed in a righteousness that is not your own and declared guiltless and forgiven by our Creator? Let's be a thankful people with a clear vision to see the grace of God at work in the lives of all of those who make up the Body of Christ. Let's pray.